

徳之島金見方言記述資料

金, アリン
九州大学大学院 : 博士後期課程

<https://doi.org/10.15017/1811271>

出版情報 : 文献探究. 54, pp.14-28, 2016-03-31. 文献探究の会
バージョン :
権利関係 :

徳之島金見方言記述資料

金 ア リ ン

1. 徳之島金見方言

金見方言は、奄美群島の徳之島の北部に位置する金見集落で話されている方言である。集落の人口は100人弱で話者数はその約半数とのことである。金見方言は、北琉球語の奄美語に属する方言である。多くの琉球語がそうであるように、金見方言も日本語モノリンガル化と話者の高齢化により話者数が急激に減少し、消滅の危機に瀕している。

しかし、金見方言に関する先行研究は管見の限り存在しておらず、本稿は金見方言に関する初のまとまった報告である。

本稿の表記は原則として小川（2015）に準拠している。ただし、[ki]と[gi]の表記を、小川（2015）で指定されている、「きい°」（ID0607）、「ぎい°」（ID0707）だけでなく、「けい°」と「げい°」でもよいことにする。これは、「けい」および「げい」という表記が、すでに徳之島で広く使用されていることを考慮したものである。ただし、本稿では中舌を表す「°」の省略は認めない。ⁱ

本資料は（1）のような枠に入れて書いている。これは小川（2015）の第2部における個別方言の語例を示す方法と同じである。また、本資料の枠は仮名表記の五十音順に並べてある。

（1）

仮名表記	アルファベット	語例（仮名表記 アルファベット表記〈日本語訳〉） ⁱⁱ	ID 番号
	ベット 表記		

2. 徳之島金見方言の語例

【新】は伝統艇方言にはないが、日本語の借用などで金見でも使われている語であることを示す。そして、「手」を意味する語のように、同じ語でもその発音に世代差がある場合、90代の話者の発音を【老】、60代の話者の発音を【若】で表す。「てい°」の欄に「てい° ti〈手【老】〉」と書き、「てい」の欄に「てい ti〈手【若】〉」と記すといった具合である。ⁱⁱⁱ

あ	a	あどう adu <踵>、あちゃー achaa <明日>、あまーだ amaada <籠の上に吊り下げた棚>、あむい° amī <雨>、あただん atadan <急に>、あすい° ーびゅむい° asībyumī <遊ぼうか>	0101
い	i	いり iri <錐>、いりー irii <西>、いぬい° inī <稲>、いじゃい ijai <夜の漁>、いちゅい ichui <いちご・言っている>	0102
う	u	うーどうい udui <雄鶏>、うや uya <親>、うぐわすい° ugwasī <そうだ>、うぶくい° てい ubukwiti <溺れた>、うどうんちー udunchii <驚いた>、うちゅーい uchui <浮いている、打っている>	0103
え	e	えーゆん=ど eeyun=do <言いますよ>、つくえ tsukue <机【新】>、えんぴつ enpitsu <鉛筆【新】>	0104
お	o	おばらはだれん oborahadaren <ありがとうございます>、おそーはい osoohai <遅い>	0105
いい°	ī	いい° īī <柄>	0109
‘あ	‘a	‘あーか ‘aaka <姉>、‘あーま ‘aama <母>、‘あん ‘an <おばあさん>、‘あっち ‘acchi <歩いた>、‘あーはい ‘aahai <赤い>	0121
‘い	‘i	‘いん ‘in <犬>、‘いーさとまい ‘iisatomai <かまきり>、‘いーの īino <竜巻>、‘いっとうだーる ‘ittudaaru <一斗樽>、‘いっちい° ‘icchī <入った>	0122
‘う	‘u	‘うーん ‘uun <海>、‘うい ‘ui <目上の人(呼ぶときに使う)>、‘うーじゅ ‘uuju <ウツボ>、‘うっきゃ ‘ukkyā <あなたたち>、‘うっかん ‘ukkan <頭>、‘うー ‘uu <右(牛や馬に対してのみ使う)>	0123
‘え	‘e	‘えー ‘えー ‘ee‘ee <ねえねえ(呼びかける時)>	0124
‘お	‘o	‘おーさ ‘oosa <あおさ>、‘おー ‘oo <泡>、‘おーゆい ‘ooyui <会う>、‘おーげえ° ‘oogē <扇げ>、‘お ‘o <はい(答える時)>	0125
‘ええ°	‘ē	‘ええ° ーじゃ ‘ēēja <とんぼ>、‘ええ° ーだ ‘ēēda <間>	0127
か	ka	からーじ karaaji <髪の毛>、かいばん kaiban <粥>、かいな kaina <腕>、かいり kairi <帰り>、かたろい kataroi <語る>、からーはい karaahai <辛い>	0601
き	ki	きっちゃてい° kicchati <崖・段差>、きん kin <着物>、きも kimo <肝・心>	0602

く	ku	くー kuu <粉>、くし kusi <腰・後ろ>、すく suku <底>、がまーく gamaaku <横腹>、くも kumo <雲>、くい kui <首>	0603
け	ke	けだま kedama <毛玉【新】>、いけ ike <池【新】>	0604
こ	ko	みんこ minko <つんぼ>、こー koo <皮・川>、こっかーる kokkaaru <アカショウビン(鳥)>	0605
きい° / けい°	kī	きい° ー/けい° kīi <木>、あきい° /あけい° akī <垢>、きい° ぶーし / けい° ぶーし kibuusi <煙>、きい° んむん/けい° んむん kīnmun <木の妖精、ケンムン>、きい° ーてい/けい° ーてい kīiti <蹴った>	0607
けえ°	kē	いっけえ° ikkē <鱗>、いけえ° ikē <池>、けえ° ーてい kēēti <消えた>	0609
‘き	k'i	‘きびしょ k'ibisho <急須>	0641
‘く	k'u	‘くじした k'ujisita <靴下>	0642
‘こ	k'o	ていん ‘こ tink'o <手の甲>	0644
が	ga	がじゃん gajan <蚊>、がん gan <蟹>、‘あーがい 'aagai <明かり>、あがり agai <東>	0701
ぎ	gi	みぎ migi <右>、ぎーのんかい giinonkai <かまきり>、‘うい° ーぎ wīigi <泳ぐ>	0702
ぐ	gu	とーぐら toogura <母屋>、あぐまーはい agumaahai <眠い>、ぐさん gusan <杖>	0703
げ	ge	みしげ misige <しゃもじ>	0704
ご	go	はごーはい hagoohai <悔しい・(ハブが出そうで) 怖い>	0705
ぎい° / げい°	gī	しらーぎい° /しらーげい° siraagi° <白髪>、ぎい° や/げい° や giya <萱>、あぎい° むん/あげい° むん agimun <揚げ物>、ゆんぎい° とうい/ゆんげい° とうい yungitui <汚れている>	0707

げえ°	gë	げえ° 一ま gëema <ギーマ(植)>、うとうげえ° utugë <顎>、ていぬげえ° tinugë <手ぬぐい>、とーげえ° toogë <鉞>	0709
さ	sa	さーた saata <砂糖>、あさ asa <朝(方言)>、さーき saaki <櫛>、ささん sasan <ムカデ>、あさーは asaaha <蟬>、さきい° ぐれ sakigure <飲んだくれ>	1401
し	shi/syi	しばい sibai <小便>、しぬい° sini <足>、うし usi <牛>、いし isi <石>	1402
す	su	やんくつす yankussu <家の裏>、‘くわつきせーてい k'wakkiseeti <ごちそう致しました>、しーし siisi <煤>、すとう sutu <外>、すー suu <下>、	1403
せ	se	やせ yase <野菜>、せーゆい seejui <します>、うりだれんせ? uridarensé? <降りますか>	1404
そ	so	そー soo <物干し竿>、そーまで soomade <大急ぎ>、そろすい sorosui <揃える>、おそーはい osoohai <遅い>	1405
すい°	sï	ちっすい° chissï <膝小僧>、すい° sï <岩瀬>、すい° だ sïida <目上(比較の時使う)>、あすい° asi <昼飯・汗>、すい° むれ simure <閉める>	1407
ざ	za	かざもーさ kazamoosa <アダンの葉で作った風車>、かざ kaza <匂い>、くるざーた kuruzata <黒砂糖>	1601
じ	ji/zyi	まじんな majinna <一緒に>、をうじがなーし ujiganaasi <叔父>、はじ haji <蒸し網>	1602
ず	zu	ず zu <図【新】>、あんず anzu <杏子【新】>	1603
ぜ	ze	ひりかぜー=どう hirikazee=du <(魚介類が)臭い>	1604
ぞ	zo	かぞく kazoku <家族【新】>	1605
ずい°	zï	むい° ずい° mizi <水>、きじい° kizi <傷>	1607
た	ta	‘ういた 'uita <あなたたち(敬語)>、ありった aritta <彼ら>、うたゆい utayui <打たれる>	0401

てい	ti	ていーだ tiida <太陽>、むい° てい miti <生えた>、かなんなんてい kanannanti <金見で>、ぬーなーてい nuunaati <なぜ>、てい ti <手【若】>	0402
とう	tu	とうい tui <鳥>、とうま tuma <蓆>、とうじ tuji <妻>、とうじゅーた tujuuta <夫婦>、なーとうーば naatuuba <(長い物の)真ん中ら辺>	0403
て	te	てーち teechi <しゃりんばい(植)>、てーこ teeko <太鼓>、はて hate <畑>、ゆくてとうい yukutetui <横たわっている>	0404
と	to	うとーい utooi <歌う>、とー too <タコ>、ぶい° んと binto <弁当>、とーりーてい tooriiti <疲れる>	0405
てい°	tī	てい° tī <手【老】>、てい° んがま tīngama <いたずら【老】>、てい° っこ tikko <殴ること(げんこつより強い)【老】>、てい° ぬげえ° tīnugē <手ぬぐい【老】>	0406
てえ°	tē	てえ° げえ° てえ° げえ° tēgētēgē <いい加減>	0408
ち	chi	ちずい° chizi <唾>、ちぶーるばち chibuurubachi <スズメバチ>	1702
つ	tsu	つた tsuta <蔦【新】>、かつどん katsudon <かつ丼【新】>	1703
つい°	tsī	つい° っけ tsikke <汁を炊く鍋>、みっつい° mittsi <満ちる>	1707
‘た	t'a	‘たーち 'taati <二つ>、‘たーい 'tai <二人>	0423
‘てい	t'i	‘ていーち 'tiichi <一つ>	0424
だ	da	だー daa <どこ>、だーが? daaga <どこ?>、ゆだ yada <枝>、だりーてい dariiti <疲れた>	0501
でい	di	うでい udi <腕>、さでい sadi <三角網>、でいっくーぬい° dikkuuni <大根>	0502
どう	du	どうー duu <体・自分>、どうし dusi <友>、やーどう yaadu <戸>	0503

で	de	でー dee <竹>、‘まんくらで m'ankurade <金見にある岳>、きよーでぬい° ーじ koodeniizi <親戚>、ちんなんでーら chinnandeera <カタツムリ>	0504
ど	do	どーしい° ばん dooshiiban <おじや>、どー doo <場所・所>、〜ど ~do <〜よ>、	0505
でい°	di	でい° ん din <どれ>、すでい° sudi <袖>、ふでい° hwudi <筆>	0506
な	na	うない unai <姉妹>、うないり unairi <兄妹・姉弟>、ない nai <ソテツの実・稲苗>、なすい° ーび naasiibi <茄子>、なだ nada <涙>	1301
に	ni	にー nii <荷>、うに uni <鬼>	1302
ぬ	nu	ひとつば hitotsuba <イヌマキの実>、ぬちゆい nutsui <針の耳に糸を通す>、ぬみつくわすい° numikkwasi <飲みすぎた>、ぬー nuu <何>、ぬーん nuun <蚤>、きぬ kinu <昨日>	1303
ね	ne	ねーじ neezi <無い>、ねつ netsu <熱【新】>、インドネシア indonesia <インドネシア【新】>	1304
の	no	のーぎり noogiri <鋸>、いのー inoo <タイトプール>	1305
ぬい°	ni	ふぬい° huni <骨>、ぬい° ni <胸>、たぬい° tani <種>、ぬい° ぐい <根>、ぬい° じん nijin <ネズミ>、ぬい° ーぶ niibu <ひしゃく>、ぬい° ぶーはい niбуhai <遅い>	1306
ねえ°	në	ゆねえ° junë <夜業>	1308
‘な	n'a	‘な n'a <今>、‘ないぐわ n'aigwa <少し>	1310
は	ha	はーま haama <浜・墓・サトウキビの皮>、はんじん hanzin <サツマイモ>、はい hai <南>、はゆい hayui <行く>	1801
ひ	hi	ひぎゅーとう higyuutu <仕事>、ひぎい° higi° <髭>、ひじゃい hizai <左>、ひゆい hiyui <お腹が減る>、ひりかじゃーはい hirikazaahai <(魚介類が)臭い>	1802
ふ	hwu	かぬい° ーふ kaniihwu <てんばい>、ふす hwusu <臍>、ふくもい hwukumoi <バナナのつぼみ>	1815

へ	he	へや heya <部屋【新】>	1804
ほ	ho	ほんば honba <孫と祖父母>、ほーい hooi <這う>、ほーらはい hoorahai <嬉しい>	1805
ひい°	hi	ひい° ま hīima <暇>	1806
へえ°	hë	へえ° さい hëesai <早い>、へえ° ーゆい hëyui <開ける>、かめえ° へえ° kamëhë <食べなさい>	1808
ふい°	hwī	ふい° hwī <尻>、ゆふい° yuhwī <夕食>、ふい° る hwīru <にんにく>、ふい° ゆい hwījui <起きる>	0818
ふえ°	hwë	ふえ° ーい hwëei <酢>、ふえ° ーはい hwëehai <大きい>	0820
ば	ba	ばー baa <テンノウメの果肉>、ばんしろ bansiro <グワバ>、あばーさ abaasa <ハリセンボン>、しば siba <舌>	0301
び	bi	たびーる tabiru <おたまじゃくし>、びっきゃ bikkyā <カエル>、びんた binta <十円ハゲ>	0302
ぶ	bu	ぶっか bukka <風船>、ぶんゆし bunyusi <髪が伸び放題になっている様子>、ぶたーぐわ butaagwa <双子>、ぶく buku <泡>、ぶーとう buutu <山の蚊>	0303
べ	be	べんき benki <便器【新】>、すべりだい suberidai <滑り台【新】>	0304
ぼ	bo	ういぼ uibo <甥>、んーちたぼーれ nnchitaboore <見てください>	0305
ぶい°	bī	しゆぶい° shiyubī <炊事場>、なーぶい° naabī <鍋>、なぶい° ーら nabīra <へちま>、はぶい° ーる habīru <蛾>、あぶい° ゆい abiyui <呼ぶ>	0307
べえ°	bë	きじべえ° kizibë <キビ酢>、～あんべえ° ~anbë <～みたいだ>、～べえ° ~bë <～ばかり>、あんべえ° わっさ anbëwassa <具合悪い>	0309
ぱ	pa	パン pan <パン【新】>	0201

ぴ	pi	ぴーよ piyo <ひよこ>、あんぴらぶっこ anpirabukko <かます(魚)>	0202
ぷ	pu	ぷっか pukka <空っぽ>	0203
ぺ	pe	ペンギン penguin <ペンギン【新】>	0204
ぽ	po	ポンプ ponpu <ポンプ【新】>、たんぼぽ tannpopo <たんぼぽ【新】>	0205
ま	ma	まーる maaru <糞>、まき maki <額>、まーす maasu <塩>、あま ama <あそこ>、まぶい mabui <魂>、まなーか manaaka <便所>、まーい maai <尻>、ましし masisi <肉>	1201
み	mi	みん min <耳>、みばーさ mibaasa <バナナ>、みす misu <味噌>、くゆみ kuyumi <唇>	1202
む	mu	むく muku <ふくらはぎ>、むんぐち munguchi <門>、むちぎゃーは mutigjaaha <サネンバナ(植)>、むん mun <もの>、むれ mure <乞食>、むっしゅ mussyu <蓆>、むんくーさ munkuusa <食いしん坊>	1203
め	me	めいじ meiji <明治【新】>	1204
も	mo	ふくもい hukumoi <バナナのつぼみ>、もーいすい° moosi° <亡くなる>、きもちャげえ° ーはい kimochagëehai <可哀想だ>	1205
むい°	mï	むい° mï <目>、むい° んしる mïnsiru <涙(目の汁)>、つむい° tsumï <爪>、むい° じらーはい mijiraahai <面白い>	1207
めえ°	më	めえ° ー mëë <前>、めえ° ーれえ° mëëre <若い娘>、めえ° ーくすい° mëëkusï <(体の)前後>、はんめえ° hanmë <ごはん>	1209
‘ま	m'a	‘まーはい m'aahai <美味しい>、‘ま m'a <馬>、‘まーが m'aaga <孫>、‘まーち m'achi <火>	1212
‘も	m'o	‘もんしょーれ m'onshore <いらっしゃい>	1216
‘むい°	m'ï	‘むい° ちゃーはい m'ïchahai <危ない>、‘むい° ーじすい° m'ïzisi <辛い目に遭った>	1217

や	ya	やー jaa <家>、やーらーはい jaaraahai <柔らかい>、やいとー jaitoo <たくさん>、やんばーち yanbaachi <壊した>、やーむち yaamuchi <結婚>	1001
いゝ	yi	いゝ ちゅい yitsui <座る>、こーいゝ kooyi <買う>	1002
ゆ	yu	じーゆ ziiyu <いろり>、ゆーべえ° yuubē <夕べ>、ゆいわーく yuiwaaku <相互扶助(農作業など)>、ゆむた yumuta <無駄口>、ゆだい yudai <誕>、ゆわ yuwa <四日>	1003
いえ	ye	いえーとうい yeetui <痩せている>	1004
よ	yo	よーはい yoohai <ひもじい>、よーぬい° yooni <今晚>、よーぬい° うがめーら yooniugameera <こんばんは>	1005
いゝ い°	yī	いゝ い° なが yīnga <男>、いゝ い° yī <絵>	1013
‘や	y'a	‘や y'a <お前>、‘やってい y'atti <怒られた>	1014
‘ゆ	y'u	‘ゆ y'u <魚>、‘ゆー ‘くわすい° y'uuk'wasi <魚釣り>	1015
‘いえ	y'e	‘いえ y'e <言え・おい(人を呼ぶ時)>	1016
‘よ	y'o	‘よ y'o <權>	1017
ら	ra	ていびら tibira <手のひら【若】>、すーら suura <サトウキビや木の先っぽ>、とーら toora <俵>	1901
り	ri	うり uri <それ>、とーりーてい tooriiti <疲れた・やつれた>	1902
る	ru	いるー iruu <紐>、ぬい° ーさーる niisaaru <朝飯>、さんしる sansiru <三味線>	1903
れ	re	とうれ ture <喧嘩>、われんきや warenkya <子供達>、とうじむれ tujimure <嫁もらい>	1904

ろ	ro	かたーろい kataaroi <話す>、ひぎゅろはい higiyurohai <寒い>、もろれーら mororeera <貰います>	1905
れえ°	rë	めえ° ーれえ° mëere <若い娘>	1908
わ	wa	わん wan <私>、わーく waaku <仕事>、われんきや warenkya <子供達>、わた wata <腹>、わっさい wassai <悪い>	1101
をう	wu	をうなーぎ wunaagi <小さいウツボ>、をうなぐ wunagu <女>、をうとう wutu <夫>、をうばん wuban <ご飯>、をうじがなーし wuziganaasi <叔父>、をうどうい wudui <踊り>	1103
うお	wo	うおーさい woosai <おかしい>	1105
うい°	wi	うい° ー wi <桶>	1116
うえ°	wë	ゆうえ° ーぐとう juwëëgutu <祝い事>、かたひらうえ° んない katahirawënnai <ヒラメ>、うえ° ーい wëëi <分ける>	1117
‘わ	w'a	‘わ w'a <豚>、‘わっし wassi <豚肉>	1113
‘うい°	w'i	‘うい° w'i <上>、‘うい° ーばな w'iibana <指>、‘うい° ーゆい w'i iyui <植える>	1120
‘うえ°	w'ë	‘うえ° ーだく w'ëëdaku <(地名)金見の上の方>	1121
ん	n	んぎい° ngi <棘>、んちやぶる nchaburu <土の塊>、とーん toon <薪>、んちゆなーてい nchunaati <一昨年>、んじはい nzihai <まずい>、んーちたばーれ nnchitaboore <見てください>	2012
ー	母音を 重ねる	ほーき hooki <ほうき>、‘おーぎ 'oogi <扇>	2013
っ	子音を 重ねる	ふっこ hukko <袋>、びっきや bikkya <蛙>、みっくわ mikkwa <姪>	2014
きや	kya	みきや mikya <三日>、いきや ikya <イカ・(やっては)いけない>、わっきや wakkyä <私たち>、うっきや ukkya <あなたたち>	0628

きゆ	kyu	きゆー kyuu <今日>、きゆ kyu <左(馬や牛に使う)>、きゆらむん kyuramun <きれいな人>	0629
きよ	kyo	きよーで kyoodē <兄弟>、きよーぐい kyoogui <人糞>	0630
‘きや	k'ya	‘きや k'ya <おいで【老】・行こう【若】>、‘きやーち k'yaachi <消した>	0637
‘きゆ	k'yu	‘きゆ k'yu <行こう>、‘きゆーび k'yuubi <帯>、	0638
‘きよ	k'yo	‘きよーすい° k'yoosi <打つ>	0639
ぎや	gya	うーの一ぎや uunoogya <青大将>、いぎやっさ igyassa <いくら>、たんぎやへえ° tangyahē ((作って置いた食べ物を)温めてくれ)	0717
ぎゆ	gyu	ひぎゆろーはい higyroohai <寒い>、ぎゆー gyuu <猟>	0718
ぎよ	gyo	かいぎよ kaigyo <權>、ちんぎよ chingjo <井戸>	0719
くわ	kwa	みつくわ mikkwa <姪>、まつくわ makkwa <枕>、うやつくわ uyakkwa <親子>、くわーたる kwaataro <蝮>、	0612
くい	kwi	くいひんじえ° kwihinjē <噛み砕いた>	0619
くい°	kwī	くい° ん kwīn <瓶>、ふつくい° どうい hukkwitui <膨れている、腫れている>	0615
くえ°	kwē	くえ° ー kwēē <アデク(植)>、くえ° ーれ kwēē <ください>	0617
‘くわ	k'wa	‘くわーぎい° k'waagi <桑の木>、‘くわ k'wa <子供>、‘くわーはい k'waahai <小さい>	0611
‘くえ°	k'wē	‘くえ° k'wē <肥やし>、‘くえ° ーてい k'wēēti <肥えた>、‘くえ° ーはい k'wēēhai <苦しい>	0618

ぐわ	gwa	ぶたーぐわ butaagwa <双子>、うぐわすい° ugwasī <そうだ>	0726
ぐい°	gwī	ゆんぐい° とうい yungwitui <汚れている>	0731
しゃ	sha/sya	ぎゅーしゃ gyuusha <魚師>	1419
しゅ	shu/syu	むっしゅ musshu <蓆>、ふっしゅ hwusshu <故老>、しゅーみち shuumichi <満ち潮>、しゅーひ shuuhi <引き潮>	1420
しよ	sho/syo	しょうかい shookai <紹介【新】>	1422
しい°	shī/syī	どーしい° ぼん dooshiban <おじや> しい° ーむん shīmuN <お吸い物>	1411
しえ°	shē/syē	ぬい° しえ° nishē <青年>、しえ° shē <籠の一種>	1424
じゃ	ja/zya	ひじゃい hijai <左>、うとうじゃんば utujanba <兄弟>、あんじゃ anja <下駄>、むい° くんじゃ mikunja <カワセミ(鳥)・目の見えない人>	1619
じゅ	ju/zyu	いじゅん ijun <泉>、ていじゅーく tijuuku <技>、んーじゅ nnju <溝>	1620
じよ	jo/zyo	じよーぐち jooguchi <家から外に出る出入り口>、じよーじよ joojo <ベベ(服の赤ちゃんことば)>、まんじよまい manjomai <パパイヤ>	1622
じい°	jī/zyī	じい° jī <おじいさん>、くいひんじい° kwihinjī <噛み砕いた>	1610
じえ°	jē/zyē	ふーあら=じえ° huudara=jē <大きくない>	1624
ちゃ	cha	ちゃー chaa <お茶>、みちやい michai <3人>、はいちやはい haichahai <行きたい>、ふちゃん=ど huchan=do <干したよ・拭いたよ>、しーちゃはい siichahai <したい>	1721
ちゅ	chu	ちゅ chu <人>、ちゅーか chuuka <やかん>、いちゅい ichui <イチゴ>、ちゅーすい° ーき chuusiiki <同級生>、‘あっちゅい acchui <歩いている>	1722

ちよ	cho	チョコレート chokoreeto <チョコレート【新】>	1724
ちい°	chī	ちい° chī <1日・来た>、ちい° 一ふちか chīhwuchika <一日二日(の期間)>、かーちい° あい kaachiai<書いてある>	1710
ちえ°	chē	かちえ° kachē <書いたか>	1713
‘ちや	c'ha	‘ちやー ‘ちやー c'haac'haa <そうそう(相打ち)>	1739
‘ち	c'hi	‘ち c'hi <乳、血>	1740
‘ちゆ	c'hu	‘ちゆい c'hui <一人>	1741
‘ちよ	c'ho	‘ちよーはい c'hoohai <強い>	1743
にや	nya	にやーし nyaasi <おじさん(親戚ではない)>、しんにや sinnya <～しよう>	1323
にゆ	nyu	にゆーい nyuui<見る>、にゆーとうい nyuutui <うなされている>	1324
によ	nyo	にようぼ nyoobo <女房【新】>	1325
にえ°	nyē	にえ° nyē <見ろ>、しんにえ° sinnyē <やっでごらん>	1344
ひや	hya	ひやー hyaa <子供の遊びの道具(ひやーと言われる木を棒で叩いて飛ばし、飛んだ距離を競う)>	1816
ひゆ	hyu	ひゆーはい hyuuhai <酸っぱい>、ひゆーくーし hyuukuusi <火おこし>	1817
ひよ	hyo	ひよう hyoo <豹【新】>	1818

びや	bya	いびやん ibyan <伊勢海老を取る網>、mutaabya むたーびやく竹馬、 とうびやーがてい tubyaagati <飛び上がった>	0319
びゆ	byu	あむい° ふいびゆーい amihwuibyuui <雨の日(雨降り日和)>、とう びゆーい tubyuui <飛ぶ>	0320
びよ	byo	がびょう gabyoo <画紙【新】>	0321
ぴや	pya	はっぴやく happyaku <八百【新】>	0226
ぴゆ	pyu	ピュア pyua <ピュア【新】>	0227
ぴよ	pyo	いっぴょう ippyoo <一票【新】>	0228
みや	mya	みやーげえ° myaagē <家の新築時に子供達が食べる、おまじないのご 飯。屋根が見えない所まで持って行って食べる>、みやー myaa <貝>	1224
みゆ	myu	かみゆい kamyui <食べる>、うがみゆい ugamyui <拝む>	1225
みよ	myo	みよー myoo <昔の合羽>、みよーで myoode <名代>、こーみよ koomyo <法事>	1226
‘みや	m'ya	‘みやーし m'yaasi <お箸>、‘みやーちくふ m'yaachikuhwu <ふくろ う(鳥)>	1233
りや	rya	しょうりやく shooryaku <省略【新】>	1921
りゆ	ryu	ダブリュー daburyuu <ダブリュー(W)【新】>	1922
りよ	ryo	いりょう iryoo <医療【新】>	1923

- ⁱ 小川（2015）では、[ki]の表記に「きい° /きい/くい° /くい」（ID0607）を、[gi]の表記に「ぎい° /ぎい/ぐい° /ぐい」（ID0707）を指定している。
- ⁱⁱ 一部、「ありがとうございます」のような「句」や、「～みたいだ」のような、自立語じゃないものも含まれている。
- ⁱⁱⁱ 小川（2015）の表記は原則「音声表記」であるためこのような書き分けをしているが、90代の話者において[tɪ]と[ti]が音韻的に対立をしていることを意味するものではない（現段階では未確定である）。60代話者に[tɪ]と[ti]の音韻的対立はない。

参考文献

小川晋史 [編] (2015) 『琉球のことばの書き方』くろしお出版

謝辞

本稿の資料は、元田豊様をはじめ、福田ナツエ様、元田セイコ様からご教示いただいたものです。特に元田豊様には、金見方言のアクセント、文法、談話、表記、辞書作りなど多方面に渡る調査に長年ご協力いただいております。この場を借り深くお礼申し上げます。

(きむ ありん・本学大学院博士後期課程)